ツネログ

#13 2025年9月号

皆さん、こんにちは。

この夏は日本クラブユース選手権（U-18）、日本クラブユース女子（U-18）、全国高校総合体育大会、全国中学校体育大会、日本クラブユース選手権（U-15）など、全国各地で開催されたそれぞれの育成年代における大会の決勝を視察しました。

真夏の開催になりますから、当然、熱中症対策が大切になってきます。試合中にクーリングブレイクをつくるのはもちろんのこと、チームでも選手たちの体をすぐに冷やせるような準備、工夫をしていました。プレーヤーズファーストを心掛け、猛暑の中でもプレーしやすい環境をみんなでつくろうとしていたことが印象的でした。ただ危険な暑さであることには変わらず、7、8月に日本サッカー協会主催の試合は行っておりません。夏場の試合をどうすべきか、みんなで考えていく必要があります。

ピッチ内に目を移すと、この先どのように成長していくのか見ていきたいなと思える選手が何人もいました。インテンシティー、ハードワークという現代サッカーに求められている要素も身についています。

全体的に一つ気になったことがあるとすれば、ゴール前での“決め切る力”でしょうか。ディフェンス陣の頑張りによってゴールを許していないという側面はあるにせよ、シュート技術があれば、打つタイミングが違っていれば、決まっていただろうなと思えるシーンがいくつかありました。

先日、アメリカで開催されたFIFAクラブワールドカップを視察しましたが、たとえばFCバイエルン・ミュンヘンのハリー・ケイン選手はわずかな相手の隙を突いてゴールを決めてしまう。もちろん日本の育成でも課題にしてきたところではあり、継続して“決め切る力”の質を上げていく必要性を感じました。

その力を誰よりも持っていたのが、言うまでもなく釜本邦茂さんです。かねてより病気療養中であった釜本さんは8月10日、肺炎のため逝去されました。生前のご功績に敬意を表すとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

私はガンバ大阪ユースの一期生でした。その母体となった釜本FCの選手たちは「止める、蹴る」の基本技術が高く、非常に驚かされた記憶があります。釜本さんの教えの流れを組んだガンバ大阪ユースの指導によって徹底的に鍛えてもらったおかげで私もプロになり、今日があります。

釜本さんには事あるごとに気にかけていただき、引退後は釜本さんが主宰する「釜本サッカー教室」にも呼んでいただきました。途中でピッと止めて、子どもたちを集めて「止めて、こう蹴るんや」とやはりベーシックな部分を強調して伝えていました。長年にわたって子どもたちのところにタッチして、基本技術の重要性を伝えてきた釜本さんの功績は非常に大きく、われわれも釜本さんの思いをしっかりと受け継いでいかなければなりません。

最後になりますが、8月に香川県サッカー協会（FA）を訪れて、11カ月間に及んだ47FA訪問会議を終えることができました。この場を借りまして、全ての関係者の皆さまに感謝を申し上げたいと思います。全国を回って見えてきた課題、実情の解決につながる施策を打つべく、尽力してまいります。

公益財団法人日本サッカー協会 会長　宮本恒靖

会長の活動報告

2025年7月18日～8月28日（抜粋版）

7/20(日)三重、22(火)東京、30(水)徳島、8/6(水)香川

47FA訪問会議

三重

東京

徳島

香川

昨年9月にスタートした47FA訪問会議も、8月6日の香川県FAでフィニッシュ。47FAの皆さまから伺った課題の解決と、成長のための人材育成に取り組んでいきます。また、47FAに加え各加盟団体とのコミュニケーションも強化していければと考えています。

7/23(水)

WEリーグ実行委員会(JFAハウス)

7/27(日)

Zico All-Star Game For Peace HIROSHIMA 80 Years(エディオンピースウイング広島)

7/29(火)

Jリーグ理事会(Jリーグ)

7/31(木)

第49回 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会 決勝 (ニッパツ三ツ沢球技場)

8/1(金)

第7回 日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)決勝 (正田醤油スタジアム群馬)

互いに粘り強い守備で得点を奪わせない展開となりましたが、延長後半最後のセットプレーでJFAアカデミー福島がゴールをもぎ取りました。「JFA　U-18女子サッカーファイナルズ2025」での活躍も期待しています。

8/2(土)

令和7年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会(男子)決勝(Jヴィレッジスタジアム)

Jヴィレッジで2年目の開催となった高校総体男子は、カムチャッカ半島付近で起こった地震による津波の影響を受けました。北海道開催の高校総体女子も同様でしたがいずれも関係者の皆さまの適切な対応により無事に終えることができ、心より感謝申し上げます。

8/7(木)

被爆80年広島でスポーツと平和について考えるシンポジウム(エディオンピースウイング広島)

昨年、広島と長崎の両被爆地に平和の名を冠するスタジアムが開業しました。平和でなければスポーツにも取り組めません。原爆投下から80年の節目となる今年、両FAの協力で平和について考えるシンポジウムが開催された意義は大きいと思います。

8/10(日)

2025/26 SOMPO WEリーグ INAC神戸レオネッサ vs. 日テレ・東京ヴェルディベレーザ(神戸総合運動公園ユニバー記念競技場)

5年目のWEリーグが開幕。昨年の1位2位の対決となった開幕戦は、I神戸が勝利しました。来年5月中旬まで22節132試合が行われます。継続的な支援と人々の関心が女子サッカーの未来を形づくる鍵となりますので、持続可能なリーグ運営に努めていきます。

8/22(金)

令和7年度全国中学校体育大会 第56回全国中学校サッカー大会 決勝(いちご宮崎新富サッカー場)

前日に鹿児島で発生した台風の影響により開催が危ぶまれましたが、予定通り開催となりました。関係者の皆さまは急な対応にご苦労されたと思いますが、ご尽力に感謝申し上げます。

8/25(月)

第40回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 決勝 (札幌サッカーアミューズメントパーク)

8/28(木)

9地域代表者会議、JFA理事会(JFAハウス)

理事会トピックス

2025年度第9回理事会が8月28日（木）、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。

決議事項

「プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」の改正

2025年度第7回理事会で決議された「プロサッカー選手の登録、契約および移籍に関する規則」において、2026年前半シーズンの移籍ウインドー期間に誤りがあり、正しくは「2026年1月12日から4月8日」と訂正されました。

「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」の改正

「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」に関し、日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）から「トレーニング補償金（アマチュアからプロ）」の金額に係る規定に関する改正の要望があったことから、同規則に定める「トレーニング補償金（アマチュアからプロ）」の金額を時限的に3年間、現行の25万円／年から15万円／年に引き下げる措置を取ることとしました。また、トレーニング補償金（プロ→プロ）に係る規定をFIFA規則に合わせて一部改正したほか、移籍リストに係る手続きと契約更新に係る手続き、国際移籍手続きなども運用実態に合わせて整理し、適正化することにしました。

国際委員会 委員選任

国際委員会の委員について、外務省の川埜周官房総務課長が退任し、後任として北米局北米第２課課長の村上学氏が選任されました。また、独立行政法人国際協力機構の青年海外協力隊事務局で事務局長を務めていた橘秀治氏が退任し、現在同事務局長を務める大塚卓哉氏が新たに選任されました。

報告事項

「令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨」災害支援活動

8月6日からの低気圧と前線による大雨の影響で、熊本県甲佐町のほか複数の天然芝・人工芝グラウンドが土砂の堆積などによって使用できなくなっていることから、「国内における自然災害等による被害に対する支援事業に関するガイドライン」に基づく支援対象とすることを決定しました。緊急対応として、同22日および23日に熊本県フットボールセンター「COSMOS」内の芝生広場にケージボールコートを設置し、子どもたちが安心して遊べるスペースを提供。今後、義援金やサッカーファミリー復興支援金、支援物資の提供なども実施します。

U-22日本代表コーチに越智滋之氏が選任

AFC U23アジアカップサウジアラビア2026予選に出場するU-22日本代表のコーチとして、U-20日本代表のテクニカルコーチを務めている越智滋之氏が選任されました。越智氏はU-22日本代表のテクニカルコーチも兼任します。

Information

2025年度 第21回日本サッカー殿堂 掲額者決定

第21回日本サッカー殿堂に新たに6名を掲額することになりました。
投票選考は、今年度より殿堂候補入りの時期をこれまでの「満60歳」から「プロ契約最終年から5年経過」に変更し、名称も「選手選考」に刷新。初回となる今年度は、井原正巳氏が選出されました。特別選考には、元日本女子代表監督の鈴木保氏および元日本女子代表の半田悦子さん、木岡二葉さん、高倉麻子さん、野田朱美さんが選出されました。鈴木監督と4名の元選手は、1981年に日本女子代表が初めて編成されて以降、実績が乏しかった同代表をアジアの大会で常に上位を争える強豪に押し上げ、その躍進が2011年にFIFA女子ワールドカップ制覇を遂げたなでしこジャパンの礎を築いたとして評価されました。これにより、日本サッカー殿堂に掲額された方々およびチームは、高円宮憲仁親王および97名、3チームとなりました。※8/4発表

JFAクラウドファンディングで子どもたちをキリンチャレンジカップ2025に招待

JFAは8月27日から10月3日の期間、JFAクラウドファンディングで「SAMURAI BLUEとともに！子ども観戦プロジェクト」を実施します。これは、経済的な理由などでサッカー観戦の機会を得られない子どもたちにその機会を提供し、スポーツ観戦の感動や喜びを味わい、将来の夢や希望につなげてもらいたいとして行うもので、認定NPO法人love.fútbol Japanの協力を得て実施します。集まった応援資金は10月10日に大阪、11月18日に東京で開催される「キリンチャレンジカップ2025」において、子どもたちをスタジアムに招待するために活用されます。※8/20発表

女性初のロールモデルコーチとして近賀ゆかりさんと契約

JFAは女性初のロールモデルコーチとして近賀ゆかりさんと契約しました。近賀さんにはこれまでの豊富な経験と知見を生かして、アンダーカテゴリーの日本女子代表チームをはじめ、JFAが推進する若年層の強化および普及活動に携わっていただきます。※8/20発表

JFAクラウドファンディングでフットサル日本女子代表の応援プロジェクトをスタート

JFAは9月1日から10月31日の期間、JFAクラウドファンディングで、フットサル日本女子代表応援プロジェクト「フットサル日本女子代表、FIFAフットサル女子ワールドカップフィリピン2025へ」を実施します。同代表は11月21日に開幕するワールドカップにアジアチャンピオンとして出場しますが、代表選手の多くはアマチュアで、仕事とフットサルを両立しながらレベルアップに励んでいます。その状況を改善し、チームが周到な準備をして大会に挑むために実施するもので、集まった応援資金は、合宿の充実やチームの活動を記録したり、情報発信をしたりするために活用されます。※8/25発表

その他の主なニュース

- 「JFA × KIRIN キリンファミリーチャレンジカップ2025」10/4（土）に北海道で初開催（7/18発表）
- 「JFAフットボール大学 夏季特別講座2025」「夢の教室inブルーイング」を8月の夏休み期間にblue-ing!で開催（7/18発表）
- JFA×モルテン「組み立て式サッカーボールを1,000人の子どもたちに届ける！」プロジェクトがスタート（7/22発表）
- 「JFA×文京 Dream Project」第4弾「街と能登の応援フェスvol.2」輪島市の中学2年生約90名を文京区に招待（8/1発表）
- 「審判交流プログラム」エルサルバドルより審判員を招聘（8/5発表）
- 「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD collaborated with ANA」有望な女子選手がFCバイエルン・ミュンヘンへ短期留学（8/6発表）
- 「JFA サッカーe日本代表選抜大会2025」を9/6（土）にblue-ing!で開催（8/8発表）
- 「2025年度リスペクトシンポジウム」9/13（土）にblue-ing!とオンラインで開催。テーマは「暴力暴言の根絶～審判員へのリスペクト」（8/14発表）
- FIFAフットサル女子ワールドカップフィリピン2025に山本真理審判員、齋藤香菜審判員が選出（8/27発表）
- FIFA U-17ワールドカップカタール2025に笠原寛貴主審、淺田武士副審、道山悟至副審が選出（8/27発表）
- 「BLUE DREAM みらいスクール」を11/3に高知県で実施（8/27発表）

JFA名誉会長 田嶋幸三さんをマンマーク！

動画も公開中！

第13回は、国際サッカー連盟（FIFA）のカウンシルメンバー、アジアサッカー連盟（AFC）理事を務める田嶋幸三名誉会長。宮本恒靖会長にとってはFIFAマスターに進むきっかけを与えてくれた恩人でもあります。思い出話から日本の国際力、育成力がテーマとなりました。

国際力をより高めていくために

宮本 もう30年以上前ですかね。僕がU-17日本代表の合宿に参加したとき、技術委員だった田嶋さんが世界のトップはこうだ、という話をされたことを覚えています。何より、太ももの太さに驚いた記憶がありますね。

田嶋 当時の宮本会長は、落ち着いた選手っていう印象でした。中田英寿、松田直樹たちもいて、世代としては自立した選手が多かったように思う。あのころは合宿、遠征がとても多くて、大阪府立生野高校まで行って派遣依頼のお願いをしていた。学校は快く送り出してくれました。

宮本 FIFAマスターを勧めていただいたのが田嶋さんでした。ヴィッセル神戸との契約最終年（2011年）、ホーム最終戦が終わってから都内に移動して中華料理屋さんで田嶋さんからその話を聞いて、すごく面白そうだなって。次の最終節、ずっと出ていたセンターバックの選手が腰を痛めて僕が出る流れになったんですよね。これを現役最後の試合にして、次の舞台にチャレンジするという自分の道がはっきり見えた気がしました。

田嶋 FIFAマスターは簡単じゃない。サッカーを経験し、サッカーの課題が分かる人じゃないと通過できないんですよ。チャレンジしたけど最後まで行き着かなかった人を僕は知っている。（宮本会長は）英語もできるし、向いていると思って「受けてみないか」と勧めました。JFAの中心としてやっていく人材としても、サッカーに関わってきた人がやるのがふさわしいと思っていました。実際、FIFAのジャンニ・インファンティーノ会長の側近にもFIFAマスター出身者がいます。宮本会長は、私が築いた人間関係とはまた別のチャンネルを持っていますよね。

宮本 FIFAで働いているFIFAマスター出身者も多いので、たとえば女子サッカーはこういう動きになりそうだ、などといった情報も入ります。こちらから伝えることもありますし、サッカーがより良くなっていくために互いの情報を持ち合いながら進めていくということを大事にしていきたいと思っています。JFAでも職員のFIFAマスター留学支援を前向きに検討しているところです。対外的な交渉ができる人材を内部で増やして、組織全体として国際的な力を伸ばしていく必要があるのかなと思っています。

田嶋 スクールで学ぶこともそうですが、オン・ザ・ジョブ・トレーニングも必要。海外の連盟などへの人材派遣も大事になってきますよね。私自身、長い間JFAに関わってきてありがたいと思ったのは2002年の日韓ワールドカップがあったこと、そしてトヨタカップ、初期のクラブワールドカップが日本で毎年行われたこと。FIFAの理事（現、カウンシルメンバー）がみんな集まって情報交換していく中でJFAの職員もつながり、ものすごく大きな財産になりました。今は財政的な問題だとかいろいろあって、日本で開けなくなったのが残念ですが。

宮本 指導者の国際力については、どのように感じていらっしゃいますか。

田嶋 30、40年前までアジアのサッカー二流国だった日本が育成をちゃんとやり、Jリーグを立ち上げ、そして今こうなっています、と。欧州が100年をかけて築いてきたものを50年でやろうと示したのが「JFA2005年宣言」なんです。サッカーにマジックはなくて、しっかりとシステマティックにやってきて成功させてきた。だから日本の指導者を派遣してくれって、たくさん（依頼が）くるわけです。

宮本 アジアでは本当に多くの国から要望があります。女子についてもそう。ただ、欧州で日本人指導者が求められているかと言われれば、まだそうではありませんよね。

田嶋 欧州のクラブを経験した選手が欧州でライセンスを取って、指導者になるケースが出ているのは非常にいいことなんですが、2つ課題があって1つは語学、そしてもう1つはヒエラルキーですね。欧州チャンピオンズリーグで何点取ったとか。その舞台で活躍していたら（選手も）言うことを聞くけど、アジアから来た知らない指導者の言うことなんて聞かない、というのがある。それを払拭するためにはやっぱりワールドカップで勝つことなんです。そこでヒエラルキーを崩せるはずですから。2050年までに日本でもう一度ワールドカップを開催して優勝する、サッカーファミリーを1000万人にする。このことをずっと目指しながらやり続けてきて、2046年（の開催）がラストチャンスになる。48チーム制になったので11のスタジアムが必要で、そのうち1つは8万人収容のスタジアムでなきゃいけない。そうなるとコーホスト（共催）しかない。中国なのか、韓国なのか、ASEANなのか分からないけど、私は東アジアサッカー連盟（EAFF）の会長（2025年3月に退任）として石を投げさせてもらった。あとは他の国が、日本がどのように受け取るか。

宮本 僕は2002年にプレーヤーとして参加して人々の熱狂とか大きなうねりを感じました。あれから25年近くたつ中、当時運営に携わっていた人も見ていた人も、多くの人がそのときのことを語りますよね。大きなインパクトによってその後の日本サッカーが間違いなく成長する。今の立場になってより感じるところがあります。自分の中では、やりたいという気持ちで準備していきたいと思っています。

田嶋幸三（たしま・こうぞう）

1957（昭和32）年11月21日生まれ。熊本県出身。
筑波大学卒業後、古河電気工業株式会社に入社。大学3年時に日本代表に選出され、国際Aマッチ7試合出場。日本サッカーリーグ39試合出場6得点3アシスト。引退後、ケルンスポーツ大学（ドイツ）に留学。指導者資格を取得しU-17、U-19日本代表監督、JFA技術委員長、JFAアカデミー福島スクールマスターなどを歴任。2006年JFA専務理事、10年副会長（12年まで専務理事を兼務）を経て、16年に第14代会長に就任。FIFAカウンシルメンバー、AFC理事、EAFF会長など国際舞台でも活躍。2020年藍綬褒章受章。24年からJFA名誉会長。

※次号は2025年10月発行予定／本誌クレジット表記のない写真：©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

JFA DREAM 夢があるから強くなる
発行：公益財団法人日本サッカー協会
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル　電話：050-2018-1990　HP：https://www.jfa.jp